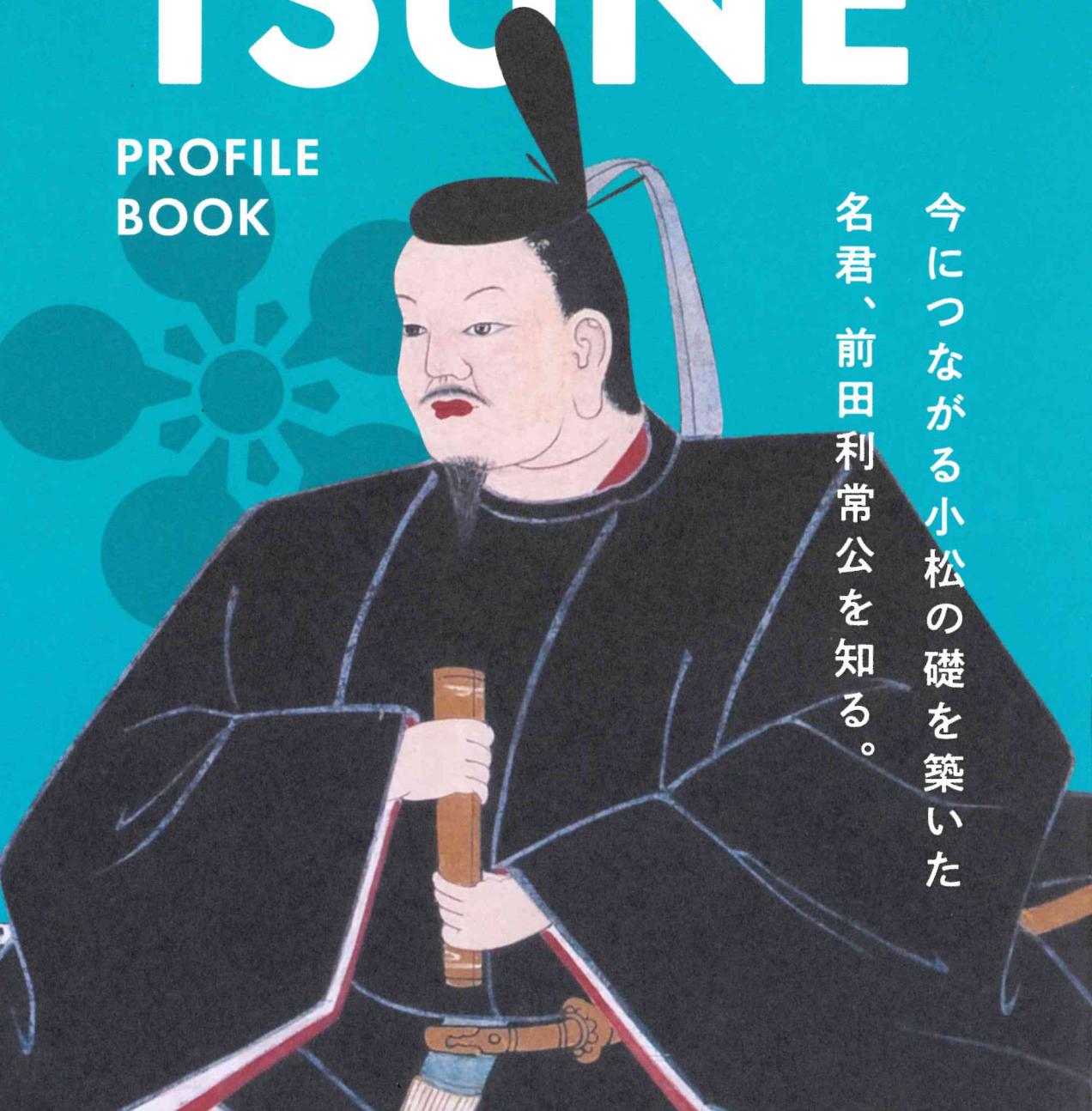


# TOSHI TSUNE

PROFILE  
BOOK



今につながる小松の礎を築いた  
名君、前田利常公を知る。



NICE TO MEET YOU!  
LEARN ABOUT ME AND  
KOMATSU'S HISTORY!

【参考文献】

- 図書刊行会『明良洪範』(1912年)
- 財団法人前田育徳会『前田利常略伝』(1958年)
- 石川県美術館『前田利常展 図録』(1976年)
- NHK歴史誕生取材班『歴史誕生15』「加賀百万石の救世主」(1992年)
- 石川県小松市『新修小松市史 資料編1 小松城』(1999年)
- 石川県小松市『新修小松市史 資料編2 小松町と安宅町』(2000年)
- 見瀬和雄『利家・利長・利常 前田三代の人と政治』(2002年)
- 北國出版社『ふるさと石川歴史館』(2002年)
- 小松市立博物館『小松と前田家』(2002年)
- 石川県小松市『図説 こまつの歴史』(2010年)
- 郷土出版社『図説 加賀の歴史』(2011年)

## 利常略年表

- 1593年(1歳)  
前田利家の四男として誕生。
- 1600年(8歳)  
「浅井畷の戦い」で苦戦した前田家人質として、当時敵であった小松城主丹羽長重のもとへ。  
丹羽長重に大切に扱われたのだそう。
- 1601年(9歳)  
徳川秀忠の二女、珠姫(3歳)と結婚。
- 1605年(13歳)  
兄利長から家督をつぐ。
- 1614年~1615年(22~23歳)  
大坂冬の陣、大坂夏の陣に参戦し、その際の功績を認められ参議に昇進。
- 1622年(30歳)  
珠姫が死去。弔いのため小立野に天徳院を建立。
- 1631年(39歳)  
火災にあった金沢城の修復や船の購入が徳川幕府に対する謀反と疑われ、危機を迎える(寛永の危機)がうまく乗り越える。
- 1639年(47歳)  
家督を嫡子の光高に譲り、隠居の地を小松に定める。
- 1640年(48歳)  
小松城へ入城。
- 1645年(53歳)  
光高が31歳で死去。光高の嫡子である綱紀が襲封することとなつたが、3歳だったため利常が後見人となり小松城で政治を見るに。
- 1658年(66歳)  
小松城で死去  
灰塚は小松市植田町にあります。当時茶畠があったこの地を本人が希望したとの逸話も伝えられます。

WHO IS TOSHITSUNE?



## TOSHITSUNE'S PROFILE プロフィール

# まえだとしのぶ

# 前田利常

前田利家の四男、加賀前田家三代

母

寿福院

初陣

大坂冬の陣

幼い頃の名前

猿千代、大千代

### 利常がよくわかる

#### キーワード



「加賀百万石」という大大名たることを世に知らしめるほどのスケールで文化事業を進めた利常公。超一流で有名な文化人や名工を招いたり、お金に糸目をつけないほど数多くの美術品を国内さらには海外から蒐集したりと。文化事業で湯水のようにお金を使って幕府に対して軍事的に歯向かうつもりはないことを示したのではないかとの話もありますが、文化では天下一ともいわれています。

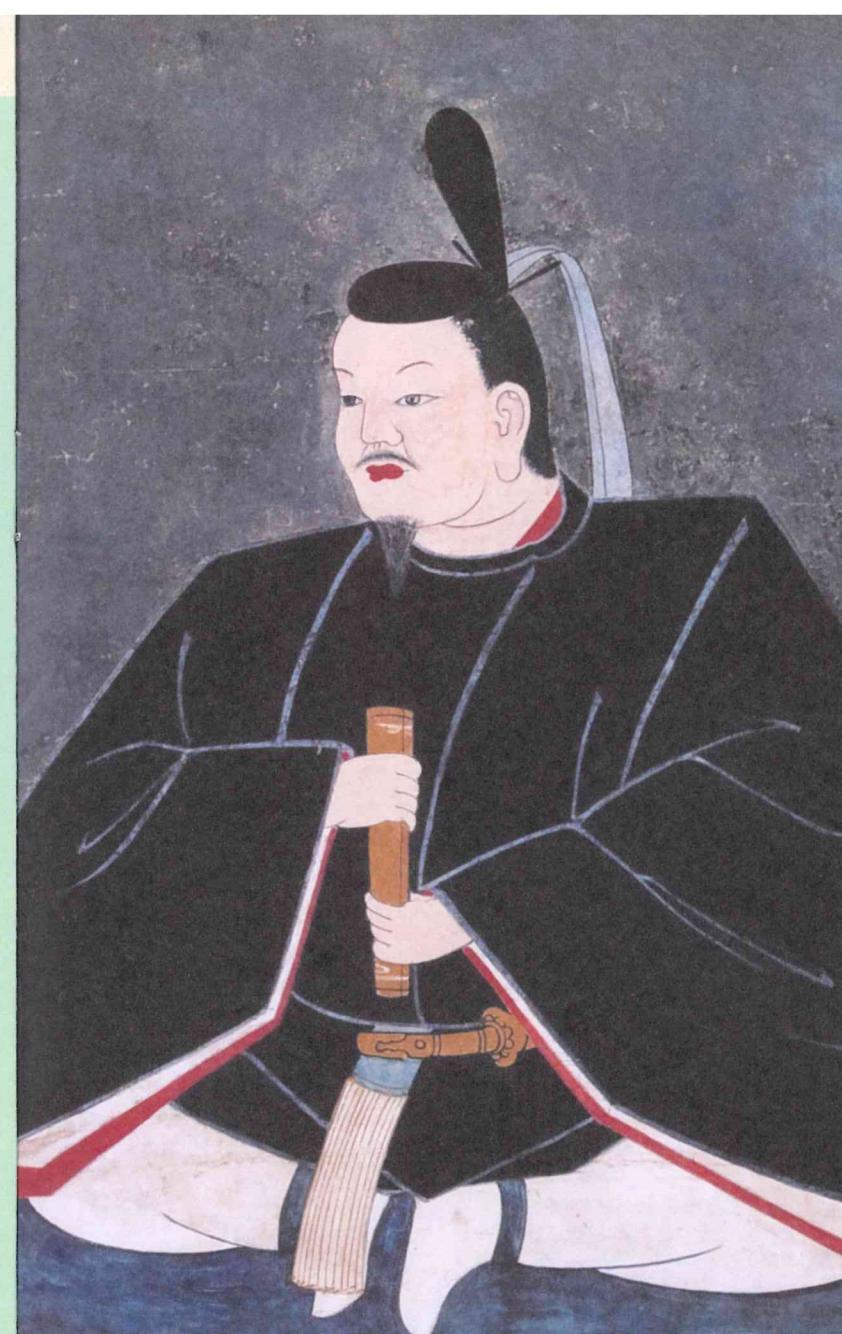


小松城に隠居した利常公でしたが、嫡子の光高が亡くなってしまい、孫の綱紀の後見役として小松城から藩を取り仕切っていました。そうしたなか、改作法という農政改革を実施した利常公。滞納されていた年貢を免除するなど百姓たちを救済するとともに、安定した年貢の収納を実現。その成果は「政治は一加賀二土佐」と江戸でさやかれるほどに。



最大の外様大名として何かと幕府から目を付けられやすかった加賀藩。鼻毛が伸びすぎて見苦しく、家臣から鏡や毛抜きを渡された利常公は、「大大名として日本に知れたる私が利口そうな顔をしていると、大いに警戒されて無理難題をぶつけられてしまうのだ。鼻毛を伸ばして馬鹿そうな顔をして、相手にそう思ってもらえば、加賀・能登・越中の三ヵ国は安泰で、皆安心していられるのだ」と言つたらしい。

※年齢については、数え年で記載



「前田利常画像」(部分)那谷寺蔵

# 知る。

## WHO IS TOSHITSUNE?

今につながる小松の礎を築いた名君、前田利常公を

賀前田家三代当主として活躍した後、1640年、隠居の地として幼少期の思い出が残る小松城に入った利常公。その入城に伴い、多くの武士とともに職人や商人が小松に集まるようになり、さらに、古くからの特産品である絹織物や置表の保護奨励を行い、瓦や茶葉などの生産を始めさせたことで、小松は南加賀における産業・商業の中心的な街として大きく発展しました。

また、神仏をうやまい大切にしていた利常公は、小松天満宮や那谷寺など今も文化財として残る建造物を造営したことでも有名。茶道で有名な千利休の血筋をひく仙叟宗室や北野天満宮の連歌師・能順を京都から招くなど文化の振興にも力を注ぎました。

利常公の入城以来、小松は大きく発展し、町人文化が華開き、それは、今につながる小松の礎となりました。

WHO IS TOSHITSUNE?

# 利常公が生んだ

文化・功績を

辿る。



茶の湯を愛した利常公。

# 茶文化愛。

1652年には千利休の孫宗旦の四男である仙叟宗室を小松に迎えます。仙叟が利常公と仙叟がいたからこそ。同時に利常公は茶器などを全国から集めるとともに、美術工芸品の藩内生産も進めました。そのことが伝統工芸・九谷焼の生産にも繋がっていましたとされています。

仙叟宗室(せんそうそうしつ)

利休の茶を継ぐ三千家(表千家・裏千家・武者小路千家)のうち「裏千家」の流祖となる。



**TOSHITSUNE'S ACHIEVEMENTS**

城づくりへの  
情熱。

1 639年、利常公は隠居の地を小松城に定めました。その後、腕利きの名工たちを全国から呼び寄せて御殿や石垣の整備を行い、金沢城で使用中の台石まで小松城に移動させようとしたエピソードが伝わるなど、城づくりに情熱を傾けました。その年、藩米を下関経由の海路で大坂へ運ぶことに成功した利常公。後に北前船で賑わう西回り航路整備の先駆けとなりました。梯川の流れを巧みに取り込み、海路とつながる安宅港や周辺地域と水路で連結させた城下町の整備は、内陸の水運を意識したもので、水の郷こまつを活かしたまちづくりだったともいえます。



中でも石垣の積み方は  
こだわりのポイント!



# お花畠と庭づくり。

小

内から植木や石を集めさせるなど「庭づくり」に熱意をそそいた利常公。那谷寺には、利常公が分部ト齋を作庭奉行として従事させ造らせた庭園が残っており、接して建つ書院には、庭を眺められるところに利常公の御成間が造られています。さらには利常公の四女富姫が八条宮忠智に嫁いでいることから、八条宮の別荘地であった桂離宮の整備にも多大な支援をしています。

NATADERA  
KURITEIEN!

神仏を敬う。

現在の小松  
天満宮のようす



製茶や畳表なども小松に  
根付く産業のきっかけはこの時代にあったんですね!



ものづくり  
の振興。

日末や蓮代寺で焼かせたことから始まったといふ瓦生産。京都から種を取り寄せて栽培が始まったとされる製茶業など。とくに絹織物の商いで力をついた商人たちは、曳山子供歌舞伎を始める原動力となりました。産業の保護育成に力を尽くした利常公がのちに華開く町人文化の礎を築いたと言えるでしょう。

# 能が好き。



産業の保護奨励を行い、小松のものづくりを発展させた利常公。古くから小松の特産品で品質の統制などが行われた絹織物。城の整備に際して力をついた商人たちは、曳山子供歌舞伎を始める原動力となりました。産業の保護育成に力を尽くした利常公がのちに華開く町人文化の礎を築いたと言えるでしょう。



1997年、仙叟宗室没後300年  
を記念して、芦城公園に見事な  
茶室が寄贈されました。

GEN-AN!



VISIT KOMATSU CASTLE!

能登半島地震の被害により閉館しました  
①小松市立博物館

「二階御亭入口扉」、「菅島御殿  
兎門扉」のほか、城の大改修の際  
につくられた「いぶし瓦」や「天井  
板」、小松城のお座敷で実際に使  
われていたとされる「襖絵」なども  
所蔵。

唐子琴棋書画  
遊芸襖絵  
小松城のお座敷  
で使われていたと  
される四枚一組の  
豪華な襖絵。



③ 本丸櫓台石垣

高校の敷地の隅に残る小松城櫓台(★1)  
の石垣。直線的に加工した石材をすき間なく  
積み上げていく「切込ハギ」という工法を用  
いています。小松の凝灰岩のほか、コーナー  
の要所などには戸室石も使われています。



二階御亭入口扉  
見事な彫刻が  
すばらしい。(★2)

唐子琴棋書画  
遊芸襖絵  
小松城のお座敷  
で使われていたと  
される四枚一組の  
豪華な襖絵。



小松城瓦  
小松城の大改修の際、蓮代寺  
と日末に瓦窯が築かれ、城に供  
給されていたのだそう。



② 芦城公園

小松城の三之丸だったところの公園。小  
松城で使われていたとされる戸室石がいく  
つか発見できます。園内には前田利常像  
や仙叟没後300年を記念して建てられた  
「仙叟屋敷ならびに玄庵」という立派な茶  
室もあり見ごたえ充分です。

前田利常像



④ 来生寺

二之丸から枇杷島へ渡る鰐橋にあった  
鰐橋門(★3)は来生寺に移築され、寺  
門として利用されています。当時をしの  
ぶ数少ない貴重な遺構の一つです。



⑤ 小松天満宮

利常公が小松城に隠居したの  
ち、鬼門の方角にあたるこの地に  
建立。小松城で使われていた風  
炉先や利常公の書などを所蔵。



利常公ゆかりの地  
訪ねる。「小松城」跡を

# 利常公ゆかりの地 「小松城」跡を 訪ねる。

